

## 勉強する理由 (教育コラム)

8 月は夏休み。皆さんも小学校や中学校時代に夏休みの宿題と様々な形で格闘した経験があるかと思います。時間だけは有り余るほどある時期なので、何で長期休暇にも関わらず勉強をしないといけないのか？と、ひねくれた私は毎年考えていたように思い出します。哲学者パスカルは「人間は考える葦である。」と言ったそうですが、子ども時代の私には何時間もボ〜っと考えても『何故勉強をしないといけないのか』『勉強するとはどういうことなのか』の答えを見つけることは出来ませんでした。

大人になり、親になり、子どもが生まれ、私なりに辿り着いた答え、それは『**川を登れ、海を渡れ**』。これを実践するために勉強が必要だと、今の私は思っています。社会人になり仕事をしていて日々感じることは、『仕事=問題解決』と言う事。私の仕事をとっても簡単に伝えるなら、各個人や法人が抱えている経済的問題を解決する手段として保険という金融商品を提示し採用していただくことです。世の中には多くの問題があります。地球規模の問題で言うと、地球温暖化、バリアフリー、気候変動、原子力発電所、核兵器、領土問題等々。挙げればキリがありません。もっと私た

ちの身近な問題で言えば、病気やケガ、視力低下、肥満、猛暑、水漏れ、引きこもりや不登校。日々の生活の中にはさまざまな問題があると思います。中々一筋縄では解決しない問題もありますが、一つ一つの問題に対してそれを解決することや解決の手助けをすることが仕事になっています。病気やケガに対しては、お医者さんや薬剤師さん製薬会社で働く研究員という仕事等々。視力低下に対しては、眼科医や眼鏡やコンタクトレンズの製造会社で働く社員、実際の眼鏡屋で購入のサポートをしてくれる店員さん等々。困りごとの解決をするために日々私たちは仕事をしています。

**そ**んな日々の中で先程のフレーズの前半部分『川を登れ』がどのよう  
に関係しているかを解説していきます。川を登れとは、過去の歴史から学  
べと言うことです。これは 19 世紀のヨーロッパで最大の成功を収めた政  
治家であり、プロイセン王国の首相として当時の強国オーストリアやフラ  
ンスとの戦争に勝利し、ドイツを統一してドイツ帝国初代宰相となり 27  
年間も辣腕を振るった鉄血宰相オットー・フォン・ビスマルクの言葉「愚  
者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」からも同様の思想を学ぶことが出来  
ると思います。また、ビジネス本でもよく出てきますし、実際日本の戦国  
時代の武士で「孫子の兵法（紀元前 500 年くらいの中国の歴史兵法書）」

を学び天下統一を成し遂げた名将、言わずと知れた徳川家康がいます。つまり、自身の経験だけで目の前の問題解決を行おうとしても失敗を繰り返してしまい、現代社会においても生き残っていくことはまあまあ難しくなります。「失敗は成功の母」の名言で有名な稀代の発明家トーマス・エジソンですが、電球を開発する際にフィラメントの材料を約 2,000 個試したそうです。この話で大切なのは 2,000 回失敗しても挫けない鉄のメンタルを持ちなさいと言った根性論では無いですし、諦めなければ必ず夢は叶うという、それらしい成功法則でもありません。大切なことは、2,000 個のそれぞれ異なった材料で実験を繰り返したことです。一度も同じ失敗を繰り返さなかったことです。失敗と言う過去の結果 = 歴史から学んだと言うことです。エジソンの場合は、この世にないモノを新たに発明するため、先人の歴史から学ぶ部分は少なかったかも知れませんが、決して同じ間違いをしなかったからこそ、発明完成まで最短距離で辿り着き、莫大な数の発明品を世に残した事実があります。川を登ることで、問題解決がスムーズに行くことが想像出来たと思います。想像出来たと言うより、皆さんも日々実感していることを再認識されたと思います。とは言っても日々、同じような失敗をしてしまうことはあります。そんな時には改めて勉強をし直す良いきっかけだと私自身は捉えています。勉強をすることで、仕事や

日常での失敗が最小限になり、豊かな人生になって行くと私は思います。  
ここでの『川を登れ=勉強』は決して歴史・社会科の勉強のことを言っている訳ではありません。国語や算数・数学、理科においても論理的に物事を捉えるためにはとってても意味のある勉強になります。詳しくはまた別の機会にしましょう。

**後**半部分『海を渡れ』について、この意味は読んだままで、海外に答えを求めろ、ということです。アメリカは日本の10年先を行っていると言われ、私が学生の頃は言われていました。最近では「リ・オリエント」と言われたりもしますが、歴史の教科書で「オリエント」と言われていた地域が当時は先進的な文化のもと、経済的にも発展していました。そして、大航海時代・産業革命を経て欧米が文化・科学技術・経済の中心になった時代が暫く続きましたが、またオリエントに中心が戻って来ているようです。海を渡った日本人は昔から多く、2021年現在放映中のNHK大河ドラマの主人公・渋沢栄一も江戸時代末期のフランス留学でさまざまな事を学びました。大分県出身の偉人で私が生業にしている、生命保険を日本に初めて広めた、福沢諭吉もアメリカ留学で多くのことを学び近代日本の発展に貢献しました。それより更に時代を遡れば遣隋使・遣唐使も海を渡って

当時の日本の発展に命懸けで貢献した先祖になります。

「海を渡れ」とは象徴的な言葉で、海外に留学するということだけではなく、実社会では自分自身が今抱えている課題について、自分のテリトリーや自分の業界だけの知識では行き詰まってしまうことがあると思います。そんな時には、自分の安全地帯から少し離れた場所まで出かけて行ったり、他業界の知識を勉強することで、突然ハッと目の前に明確な道筋が見えて、問題解決が一気に進むなんてことが私も実体験で何度もあります。

ちなみに、私は小さな頃から世界地図や地球儀を見ることがとても好きで、コロナ禍で流行りつつある？バーチャル旅行を、幼い山田少年は当時から楽しんでいました。2021年8月現在・アフガニスタンから米軍が撤退したりバン政権が発足したと連日ニュースで報道されていますが、アフガニスタンを地球儀で眺めると、アメリカがどれ程強大な軍事力を誇示して来たかがイメージ出来ますし、周辺の大国イラン・インド・ロシア・中国の立ち位置等がとっても気になります。脱線はこれぐらいにして、実際に海を渡り海外で知識の習得や留学に行く際には、外国語を身に付けているとよりスムーズであることは間違いのないと思います。そのために、英語の勉強はしておいて損はないですし、実際に日本語だけで情報を取得し、知識を身に着けるには、かなり偏りがあると思います。世界的に猛威を振

るうコロナウイルスの情報も英語はもちろん、フランス語やスペイン語、ロシア語や中国語から直接情報が取れれば、より客観的な判断が出来ると思います。

『川を登れ、海を渡れ』という言葉から勉強のことを考えてみましたが、私も学生時代もっと勉強しておけば良かったとつくづく思います。親の勝手な立場で子どもだった頃は一度も感じたことはありませんが、日々勉強に集中できる環境にあるわが子を見ていて、羨ましく感じてしまいます。そうは言っても、後悔先に立たずなので、大人になった今からでも日々視野を広げて勉強を続けて行きます。ちなみに、もっと若いうちに勉強しておけば良かったという後悔は、人生で後悔したことランキングでいつも上位に入っています。人生において、一番若いのは『今』ということ肝に銘じて、繰り返しになりますが、私も勉強を続け社会に貢献していきたいと思います。最後に報告を1つ、先日受けた業界テストで満点を取ることが出来ました。正直、難しい試験ではないのですが、契約者に貢献するために私なりに努力した結果なので、とても自信になりました。とまあ、自分自身への叱咤激励は良いとして、子どもたちにもただ「勉強し

なさい」と繰り返すだけでなく、勉強する理由や勉強で私自身が失敗した経験、今になって少なからず後悔していることを素直に伝え「一緒に頑張ろうよ」という声掛けと、もちろん行動で日々子どもと共に成長出来ればと思います。今回のコラムは勉強に疑問を持ち始める、小学生高学年から中学生向けになるかと思います。ついでに大人にとっても、勉強というものを捉え直し再確認する機会にしていただければ幸いです。

本社登録不要

ソニー生命保険(株) 大分支社

〒 870-0029 大分市高砂町 2-50

オアシスひろば 21 9 階

TEL 097-532-9200

ライフプランナー 山田新悟